

記者会見要旨
(2022年7月25日)

I 前会長挨拶

1. 先ほど定期総会が終了しました。審議の内容に関しては後ほどご説明しますが、全ての議案が可決されました。
2. また総会冒頭にて、岸田内閣総理大臣にご挨拶いただき、新しい資本主義を実現するための市場の在り方やその市場における公認会計士に対する期待についてコメントいただきました。
3. 私の会長任期の最後の定期総会として、大変印象深いものとなりました。
4. 本日お集まりの皆様はじめ、メディアの方々には3年間大変お世話になりました。
5. メディアの皆様とお話をする場で意見を聞くと、新たに気付かされることが多々あり大変感謝しています。
6. 定期的に記者会見を開催するなどして、積極的にメディアの皆様と対話する機会を設けさせていただいた結果、私どもがお話したことを記事に取り上げていただけるようになってきたと感じております。
7. 掲載された記事を拝見し、同じ物事でも私とは違う切り口で皆様が見て、皆様がユーザー・読者に伝えていることを感じ、どうしたら皆様と自分たちの意識を共有できるのか。ということを考える機会にもなりました。
8. 3年間大変良い経験をさせて頂きました。重ねて御礼申し上げます。
9. これからは茂木新会長が会務を行って参りますが、茂木新会長の任期中には具体的な対策を取らなければならないことが多くあります。
10. 改正公認会計士法を踏まえた政省令の対応や、四半期開示の議論を踏まえて来年行われると思われる金融商品取引法改正等々、改正内容を現場に落とし込んでいくための具体的な取組を行っていく必要があります。
11. 引き続き、皆様の温かいご指導ご鞭撻、ご支援をお願いしたいと思います。

II 新会長挨拶

12. この度日本公認会計士協会の会長に就任いたしました茂木哲也と申します。どうぞよろしく申し上げます。
13. 先ほど、定期総会終結をもちまして会長に就任いたしました。
14. 全国4万人を超える会員・準会員を代表する、そして協会会務を司る、そういった立場に就くことの責任の重みを改めて感じているところでございます。
15. 前執行部では、私が担当として当協会のビジョンペーパー2022 をとりまとめさせていただきました。その中では「社会に信頼という価値を提供する」ことを公認会計士共通の価値として捉えております。
16. そしてその思いを「信頼の力を未来へ」という新しいタグラインに込めています。
17. 公認会計士が社会に信頼を創り、それを通じて社会に貢献していくために会長として全力を尽くしていきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。
18. 私が会務を担う3年間の間には、取り組むべき色々な課題があります。
19. このたび公認会計士法が改正されました。その対応をしっかりと進め、監査の信頼性確保に対して取り組むことが、社会に求められていることの一つです。
20. 公認会計士法改正への対応を一つ一つしっかりと積み上げ、監査の信頼性確保を万全なものにしていきたいと考えています。
21. 2点目として、本日ご出席いただいた岸田内閣総理大臣にもお話いただいた点である、サステナビリティ情報等の非財務情報の開示の充実が社会に期待されています。
22. 我々公認会計士は、これまでも財務情報の監査を通じて社会に信頼を創り出してきました。

23. その経験を非財務情報の開示の充実にも生かしていきたいと考えています。
24. 3点目ですが、それら監査業務の充実、非財務情報に対する貢献を成し遂げていくための多様かつ優秀な人材の確保と育成が何よりも重要と考えております。
25. 4点目は、メディアの方々を含めたステークホルダーの皆様としっかりとコミュニケーションを取り、率直な意見交換をし、信頼関係を築くことで私どもの取組をさらに強化していきたいと考えております。
26. 私が会務を担う3年間は、非常に大事な3年間になっていくと思っています。
27. これから先、公認会計士と日本公認会計士協会が社会にどのように役に立っていただけるかを方向付ける3年間になると考えております。
28. 是非皆様にもご協力いただき、共に社会をより良い方向に進めていくために努力していきたいと考えております。全力を尽くして参りますので、どうぞよろしく願いいたします。

Ⅲ 第56回定期総会について

29. まず、資料<1-2>をご覧ください。全体感はこちらの次第をご覧くださいいただければと思います。
30. 総会の冒頭部分の来賓挨拶にて、今回は岸田内閣総理大臣、金融庁長官、日本取引所グループ取締役兼代表執行役にお越しいただきご挨拶いただきました。
31. それから審議事項として、第1号議案から第9号議案まであり、色々なご意見を頂戴しながら議事を進め、全ての議案を承認していただきました。
32. 特に、第3号議案「倫理規則の一部変更案承認の件」につきましては、これまでもご説明させていただいたとおり、国際会計士倫理基準審議会（The International Ethics Standards Board for Accountants：IESBA）、における改訂を倫理規則の変更という形で日本でも取り入れることになりました。

Ⅳ 最近の協会、業界の主な動向について

33. 前回の記者会見後の協会及び業界の主な動向について、<資料2>に沿ってお話します。
34. 7月14日にIFRS財団評議員会は新たに2人のISSBボードメンバーを公表しました。
35. 残り4人が選任される予定ですが、その4人の中に日本人が入る予定と発表されています。日本人がISSBのボードメンバーになるということは我々にとって大きなことであり非常に嬉しく思っています。
36. 7月15日にプレスリリース「会員監査法人における公認会計士資格の表記に関する誤りについて」を公表しました。
37. 会員監査法人において、公認会計士登録をしていない者が公認会計士として有価証券報告書等に記載されているということでした。
38. なぜこのようなことが起こったのか、他にも同様の事例はないのかということについて現在調査中と聞いており、協会としては今後この報告を受けて事実関係の把握に努め、必要な対応を厳正に行ってまいります。
39. 7月16日に第1回jicpa会計教育シンポジウムを開催しました。
40. 協会では以前からハロー！会計という小中学生を対象に会計のエッセンスをわかりやすく教える会計基礎教育に取り組んできました。
41. 他方で、2021年度から実施されている中学校学習指導要領解説（社会編）で、「会計情報の活用」が取り入れられました。
42. これに対して協会としては教員用と生徒用の授業支援パッケージを制作し、ウェブサイトにて公開して使っていただけるようにしています。
43. そのような中で、5月の公認会計士法改正で協会の会則記載事項に「会計教育活動」の位置付けが追加され、今後、日本の会計教育をリードする立場になったことを踏まえ、jicpa会計教育シンポジウムを開催しました。

44. 教育界からは、中学校、高校、大学の先生にお越しいただきました。
45. シンポジウムの模様は後日アーカイブ配信を予定していますので、皆様も是非今後の協会の会計教育活動に注目していただきたいと思います。
46. 9月15日に、横浜で研究大会を開催予定です。記者会見も開催予定ですので、是非メディアの皆様もお越しいただければと思います。
47. 最後になりますが、岸田内閣総理大臣の来賓挨拶では、新しい資本主義で持続可能な経済を作っていくために、サステナビリティ情報を有価証券報告書の記載事項と位置付けて来年度から開示を義務付けるに当たって、公認会計士が非財務情報の信頼性確保に一層の役割を担ってほしい。そのようなお言葉をいただきました。
48. 有価証券報告書へのサステナビリティ情報の開示義務付けや四半期開示の一本化は、これらと併せて、日本の資本市場を世界からこれまで以上に高く評価されるよう改革する千載一遇のチャンスです。
49. 常々申し上げてきたとおり、市場の全体最適の観点で制度が見直されるかどうか、メディアの皆様にも注目して取り上げ続けていただきたいと思います。

以 上